

1 研究主題 「自ら考え、ともに学び合う子の育成」 —算数科を中心として—

2 主題設定の理由

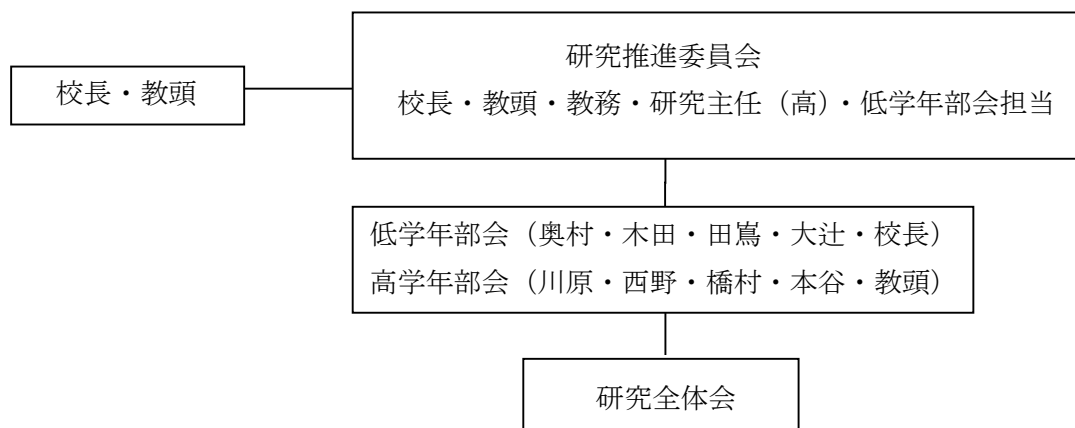
本校児童は、小さい頃から同じ集団で育ってきていることから、仲が良い反面、人間関係が固定化したり、友達の意見に流されたりしやすい面がある。学習においても、大変真面目に取り組む児童が多い一方、自ら考え、主体的に学ぼうとする児童は多くはない。このような本校児童の実態を踏まえ、研究主題を「自ら考え、ともに学び合う子の育成」とし、研究に取り組んできた。昨年度までの研究の成果としては、教師の様々な手立てや工夫によって、意欲的に課題解決に向かい、根拠や筋道を明確にして表現することもできるようになった。さらに、自分自身の変容を実感しながら自分の言葉で学習を振り返ることもできるようになってきている。しかし、自ら課題を発見し、どうすれば課題が解決できるか、主体的に課題に関わり、主体的に仲間と関わりながら学ぶという部分に関しては、まだまだ課題が残る。

一方、文部科学省は、新学習指導要領の中において、「何を学ぶか」という学習の内容にとどまらず、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」を重視している。「何ができるようになるか」の中では、新しい時代に必要な資質・能力として、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性の涵養、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・創造力の育成が求められている。情報化・グローバル化が進み、AI が生活の中にどんどん入り込み、日本は世界に例を見ない超高齢化社会に突入する。このような予測困難で価値観が多様化している現代において、主体的に学びに向かう力の育成がより一層求められている。これは、本校の研究と合致するものである。

以上のことから、引き続き、研究主題を「自ら考え、ともに学び合う子の育成」とし、自ら主体となって学ぶ児童を育成していきたいと考える。

昨年度は、算数科を研究教科の中心に据え、学習意欲の向上と確かな学力の向上、とりわけ根拠や筋道を明確に表現する力の向上を目指し、授業改善に取り組んできた。今年度も、引き続き、算数科を研究教科の中心に据える。知識・技能を獲得させることも大切にしながら、習得した知識や技能を生かすことができるような課題や単元を意識して設定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、研究を進めていきたい。

3 研究の組織



4 研究構想図

(学校教育目標) 自らの生き方を主体的に拓き、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成

【研究主題】

自ら考え、ともに学び合う子の育成
—算数科を中心として—

【研究を通してのめざす児童の姿】

○主体的に学ぶ子

・自ら課題を発見し、主体的・協働的に解決しようとする意欲をもつ。

○自分の考えを持ち、表現する子

・自分の考えをもち、相手を意識して考えの根拠や筋道を明確に表現できる。

○学び合い深め広げる子

・より良い解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスを経て、自分の考えを再構築することができる。

○既習の知識・技能を身につけている子

・基礎的・基本的な知識や技能を身につけている。

・一時間や単元で学習したことを身につけている。

授業改善 (学びの指針プラス 2条・3条)

【研究内容1】「？」→「わかった」の授業

・「？」のある授業

(?の生まれるような問題・活動や提示の工夫)

・学び合いのある授業

(ゆさぶり・問い返し発問の工夫)

・「わかった」のある授業

(適用・活用場の設定、ふりかえりの充実)

【研究内容2】「主体的・対話的で深い学び」

・習得した知識・技能を生活に生かすことのできる課題の設定や単元(カリキュラム)の構想

学習意欲の向上
根拠や筋道を表現する力の向上
学力の向上

学び合える基盤づくり

学び合える学習集団づくり

- ・学びの姿勢づくり・北前プロジェクトの継続実践
- ・友達の話を傾聴できる学級
- ・めざす授業像の共有・学び合うよさの共有

算数的なスキルの定着

- ・算数用語の習得
- ・絵や図をかくスキルの習得

温かい学級づくり

生徒指導の三機能がある学級づくり

検証

○ノートやプリント等、日常の児童の記録の分析から

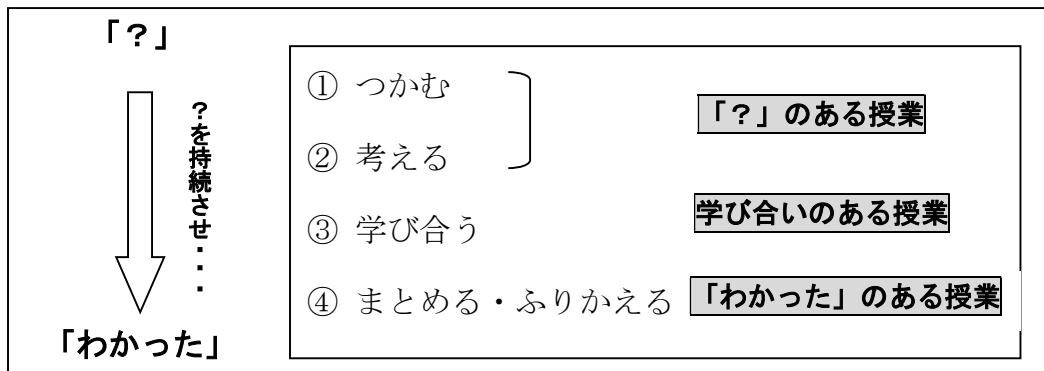
○評価問題の到達度から

5 研究の内容

(1) 授業改善

① 「？」 → 「わかった」の授業

学習意欲の向上と根拠や筋道を表現する力の向上のためには、考えたくなる・解決したくなる課題であることが大事であるとする。そのような課題を自ら解決していく中で交流し合い、認められ「わかった」「できた」「やった」と児童が実感でき、さらに学習意欲が高まるような授業づくりをしていく。



ア. 「？」が生まれるような問題・活動や提示の工夫 **「？」のある授業**

「考えたい」「解決したい」という意欲を向上させるには、「どうしてだろう」「ちょっと分かるけれど・・・」と「？」が生まれるような問題を設定する必要がある。既習を生かして解けそうな問題、児童の生活の中にある問題、発展して考えたいような問題、ゲームなどの操作活動を取り入れた問題など、問題・活動を工夫する。

また、問題の提示の仕方次第で「？」が生まれる場合もある。絵や図や表・グラフの一部を隠す方法、不備がある課題を提示する方法、よくある生活場面の設定で提示する方法、既習から徐々に未習へと入っていく方法など様々に考えられる。

児童から出された「？」を全員で確認し、本時のめあてとして板書し、一時間で何を考えていくのかを明確につかませる。

イ. ゆさぶり・問い返し発問の工夫 **学び合いのある授業**

授業の「つかむ」段階で生まれた「？」を持続させるために発問や声かけを工夫していく。「なんで？」という問い返しの発問や、教師が誤答を提示する、子どもの発言をわざと聞き間違えるなど、ねらいに迫るための思考を深めるゆさぶりの発問を工夫する。

キーワードを自ら発見させ、考えの根拠の共通点や相違点を明らかにしながら、確かな根拠をもって自分や集団の考えを再構築していけるようにする。

ウ. 適用・活用場の設定 **「わかった」のある授業**

適用題・応用問題を解く時間を必ず設定する。適用問題に取り組む場合と、学力調査 B 問題で求められているような力を付ける応用問題に取り組む場合とがある。それについては、ねらいに合った問題にする。個人差に応じて、教科書巻末の補充問題に取り組む。説明の仕方が示されていて、それを生かして書く問題も、意図的に取り入れていく。

オ. できるようになったことを自分で自覚化できるようにするふりかえり **「わかった」のある授業**

児童自身の変容を自覚化できることで、学ぶことの意味を感じ、次への学習意欲にもつながると考える。ふりかえりは「一時間でわかったこと・できるようになったこと」「次に使えそうなこと」「参考になった友達の考えのよかったところ」「生活で使えそうなところ」を書かせる。

②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、児童が一時間一時間の中で、知識・技能を習得したかどうかではなく、取得したことを様々な場で使おうとし、生かすことができようにならなければならない。また、実際にやってみる中で生きて働く知識・技能を習得しなければならない。それには、単元の構想が重要になる。生活場面から取り出した問題を設定する。また、その逆で、習得したことを生活の場に生かす問題を設定するなど、カリキュラムマネジメントも同時に行っていく。

研究の中心教科は算数科であるが、算数科のみではなく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ゆくゆくは、様々な教科でカリキュラムマネジメントができるような力を教師も身に付けていけるようにしていきたい。

(2) 学び合える基盤づくり

①学び合える学習集団づくり

ア. 学びの姿勢づくり・北前プロジェクトの継続的实践

学び合う授業を創るには、学習規律が大切である。時間を守る・学習の準備・姿勢・話し手の方に体を向けるなどのことを基本とし、教師それぞれがもっている指導のよさを出し合い、共通理解を図った上で、学校ぐるみの取り組みをしていく。昨年の「北前プロジェクト」を継続し、『①授業は自分たちの声でスタート②自分から手を挙げてハリのある声で③「聞いたよ」の反応』の実践に取り組んでいく。そうすることによって、教科が変わっても学年が変わっても全校の共通実践にし、主体的に学習する姿勢や態度を育てる。

イ. 友達の話を傾聴できる学級

友達の発言を「わかりました」「他にあります」という決められた言葉で受け止め、自分が発言することを優先するのではなく、友達の発言を傾聴することで、より深く考えることができる考える。まずは教師自身も子どもの発言をよく聞くことから始める。

ウ. めざす授業像の共有・学び合うよさの共有

教師と児童が自分たちの目指す授業像を出し合い、折に触れてふりかえり、目標に向かって進むことが主体的に学ぼうとする姿勢につながっていく。

②算数的スキルの定着

算数の用語や絵や図をかくスキルを習得させ、それを活用できるようにしていく。

ア. 算数用語の習得

用語やキーワードを習得させ、既習を生かして課題解決に取り組む。各学年、各単元で指導したい用語やよく使う用語はカードにしておき、いつでも使えるように教室に掲示し、説明する際に意識して使えるようにしていく。

イ. 絵や図をかくスキルの習得

テープ図、線分図、数直線図など、その学年、単元で身に付けなければならない絵や図の意味やかき方を指導し、その後もスキルとして使えるようにしていく。

